



やこう

学校だより 令和8年度10月号

令和8年9月30日

横浜市立矢向小学校

ホームページはこちらどうぞ→

www.educity.yokohama.lg.jp/school/es/yako/



程よい苦勞 程よい壁

教務主任 田中 利樹

大人になるまでに、私たちはそれぞれの人生で「苦勞した」経験があると思います。勉強や進路に関すること、人間関係のこと、人には言いにくい家族のこと、体や健康のことなど、苦勞や困った経験がなく今まで生きてきた人はいないでしょう。苦勞している正にその時は、文字通り苦しかったことでしょう。しかし、その苦勞が今の自分にプラスに働いているということはないでしょうか。

私が教員になりたての頃、当時勤務していた学校が突然、横浜市の研究指定校になり、横浜全市に向けて研究発表をすることになりました。通常の業務に加えて研究の仕事が舞い込んできたことで、毎日遅くまで職場に残り、時には日付をまたいでしまうこともあり、令和の今では考えにくい状況です。研究発表に慣れない集団だったこともあり、みんなでああでもない、こうでもない話し合いながら暗中模索で前に進んで行く中で、議論がヒートアップしたこともあり、しかし、いつの間にか当時の同僚との間には目に見えない絆や繋がりができていき、研究発表の年度を終えた時には、「大変だったけれど、このメンバーでやってこられて本当によかった。」と思うに至りました。どうすれば子どもたちをより良く伸ばすことができるのか、どうすれば効率よく業務を進められるのか、真剣に考えた2年間でした。辛かったけれど今の自分の糧となっている2年間になりました。何年も経った今でも年に一度、当時のメンバーで集まっています。昔話に花が咲いたり、それぞれの今を語ることで刺激を受けたりする、私の教員人生を支えてくれる仲間であることを毎回感じます。

さて、今の矢向小学校の子どもたちはどのようなことに苦勞や壁を感じているでしょうか。漢字テストに向けて一生懸命勉強したけれど、なかなか成果が出ないかもしれません。喧嘩したり気が合わなかったりする子との関わりに悩んでいるかもしれません。苦手な食べ物でもチャレンジしようとしているかもしれません。一方的な関わり方をされて「いじめられている」と感じているかもしれません。存分に体を動かせる運動場がなく、ストレスがあるかもしれません。学校全体としては、外での体育の学習や運動会のあり方、進め方についての苦勞があります。校舎の改築工事が予定通りに進まず、新しい校舎に入れる期間が短くなってしまい悲しい気持ちになっている子もいると思います。

かわいい子どもが必要以上に苦勞をしないように、保護者や教職員や地域など、周りにいる大人が先回りしたり、指導したりアドバイスしたりするのは当然のことです。しかし、全ての苦勞を取り除いてしまうと、達成感を味わったり成長したりするチャンスまで奪ってしまうことになります。中間期の成績を記した「あゆみ」を渡す三者面談、運動会などはもちろんのこと、日々の学習や生活にも苦勞や壁を乗り越えるチャンスは多くあります。

「総合でなかなか前に進まなかったけど、がんばってよかったよね。」「校舎がなかなかできなかったけど、その分〇〇できたよね。」などと何年も先に言えるようにしていきたいです。目の前にいる子どもの未来がよりよいものになるように、我々大人が苦勞や壁の質を正しく見取り、「程よい苦勞や壁を乗り越えていく子」を上手に導き、成長を見守っていく存在でありたいです。